

病虫害発生予察指導情報

(ナシ・クワコナカイガラムシ No. 2)

令和元年7月3日
鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化開始は、平年並の7月3日（平年：7月4日）に認められました。昨年、果実被害が多く認められた園では防除を徹底してください。

2. 情報の根拠

(1) クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化*開始は、平年並の7月3日（平年：7月4日）に認められた。

(2) 卵のう内のふ化の様子及び今後の気象経過などから、第一世代幼虫のふ化最盛日は、平年並の7月7日頃（平年：7月8日）と見込まれる。

*クワコナカイガラムシ第一世代卵のうからのふ化は、百葉箱内（園試）で観察。卵のうをシャーレ中央に静置し、その周囲に粘着物質を塗布、その粘着物質に捕獲された幼虫数を計数。卵のうは野外で採取。

3. 防除上注意すべき事項

(1) 昨年被害の多かった園では、5～10日間隔で発生状況を確認しながら次の時期を目安に2回の防除を行う。

幼虫ふ化最盛期 7月 7～11日

幼虫ふ化終期 7月12～16日

少発園では7月11日前後に1回防除を行う。

(2) 薬剤はスミチオン乳剤1，500倍液、モスピラン顆粒水溶剤4，000倍液、ダイアジノン水和剤34の1，000倍液などを使用し、連用を避けて輪番散布する。

(3) 薬剤の散布に当たっては、カイガラムシ類の好む生育場所（枝の切り口や粗皮の隙間等）にも十分かかるようにする。

(4) 農薬の散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守する。